

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2570500377
法人名	特定非営利活動法人 NPOふくし永源寺
事業所名	グループホーム やすらぎの里永源寺
訪問調査日	平成 22 年 5 月 31 日
評価確定日	平成 22 年 6 月 20 日
評価機関名	ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2570500377		
法人名	特定非営利活動法人NPOふくし永源寺		
事業所名	グループホーム やすらぎの里永源寺		
所在地	滋賀県東近江市山上町5045番地 (電話) 0748-27-1199		
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和和邇店2階		
訪問調査日	平成22年5月31日	評価確定日	平成22年6月20日

【情報提供票より】(平成22年5月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤	4 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	33,000 円	
敷金	有() 円 ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 ○無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月14日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 84.9 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永源寺診療所、榎田医院、織田歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は鈴鹿山脈、湖東三山に囲まれた風光明媚でのどかな田園地帯にある。昨年、当法人が事業所の近くに永源寺牧場を開設して5頭の羊を飼育し、利用者が餌やり等の世話をしに毎週訪れ、アニマルセラピーの取り組みを行いユニークな運営をしている。職員は日常の生活で利用者が出来ることはそつと見守るようにして、「その人らしさを活かし人としての尊厳を大切に心よく暮らせる生活」を目標に、生き甲斐を持って少しでも症状の進行を遅らせるように利用者と共に努力している。健康管理面では契約看護師が週3回来所し健康相談に応じている。また協力医療機関との連携も密にして安心して過ごせる環境にある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で課題とされた「地域との付き合い」と「現状に即した介護計画の見直し」は改善されたが、「重度化や終末期に向けた方針の共有」は未だ改善されていない。年々入居者の高齢化が進む状況の中で早急な取り組みを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義や目的を全職員が理解し、今回も全員参加で討議したものを管理者が纏めたもので、職員は各自改善目標を持って活動を開始している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は市職員、日赤奉仕団、民生委員、自治会長、家族代表、事業所理事、職員で構成し2カ月毎に開催している。内容は事業所職員から利用者の状況、安全衛生、医療体制、行事計画、地域の人との交流等について説明し、意見やアドバイスを貰って運営に反映しサービスの向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には毎月担当者から利用者の様子、健康状況、費用の明細等を本人のスナップ写真と共に送付して報告している。家族の来所時に積極的に意見を聞きだす努力をしたり、運営推進会議の時も意見を聞きだしている。苦情相談窓口は重要事項説明書に記載し説明するとともに玄関にも貼り出している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>小学生の演劇交流や大学生の介護体験実習を受け入れている。夏祭りに地域の人を招待したり、さらに地域の人との交流を図る為に永源寺牧場を開設し羊を媒介としてホームに来所する子供や大人が増加して季節野菜の差し入れも増加した。緊急時の応援を貰う為にホームの前の5軒の家とは緊密に交流している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしさを生かし、人としての尊厳を大切に「ほおっとやすらげる」心地よい暮らしを支える為に「地域の中の拠点となり、地域の一員として街づくりに貢献します」という理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関、職員室、和室、食堂に掲示している。また介護ファイルに貼り付けて全職員が共有し、この理念に基づいた日々の介護活動を行い、職員会議の時には唱和している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「やすらぎの里永源寺」新聞を年3回、約200部発行し地域に配布、PRしている。学生の介護実習やホームの見学、小学生の演劇等を積極的に受け入れている。地域の祭りに招待されたり、事業所の敬老祭りに地域の人を招待して交流を図っている。特にホームの前5軒とは密接な交流をし子供がよく遊びに来ている。		地理的に遠いこともあり自治会や老人会には入会していないが、入会して交流や活動が出来るよう今後も努力を続けてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価表を作成しまとめを管理者が行い、それを全員参加の職員会議で討議して決定した。その取り組みを通して各自が評価結果を自らのものとし、各人が目標を持って日常業務の改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族代表、自治会長、民生委員、日赤奉仕団、市担当職員、事業所の理事、管理者、職員のメンバーで2カ月毎に開催している。議題は事業所の現状や行事計画を報告し、参加者から意見やアドバイスを貰い、各種行事の進め方等の改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月市健康福祉部の担当者と連絡を取り、介護、予防接種、防火安全管理等の問題について相談している。運営面などについてもアドバイスを貰い常に連携を保っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	年3回カラー新聞「やすらぎの里永源寺」を発行し、写真を多く載せて分かりやすい内容で日常生活を紹介している。毎月「利用者の1カ月の様子」を発行し日常生活、健康状況、診療結果等を本人のスナップ写真入りで報告している。家族の面会時は健康面を主として日常の様子を詳しく報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には時間をかけて意見を良く聞くように取り組んでいる。家族にアンケートを実施したり、運営推進会議で家族の代表から意見を貰い体力の老化を遅くする為に毎週外出し歩くようにしている。事業所と市・県国民健康保険団体連合会の苦情相談窓口を重要事項説明書に明記し説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が交代する時は利用者と家族に不安を感じさせない様に引継ぎ期間を7日程設けている。日頃から職員は全利用者に接する様に交流しており異和感が出ないように配慮している。管理者は職員と利用者がひとつの家族のように運営をして、職員の話をよく聞いて離職が無いように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員を対象とした内部研修を毎月1回実施している。研修内容は応対、認知症の知識、救急救命、基礎医学、食品衛生、防火など多岐にわたっている。外部の研修も積極的に受講し公的資格取得の為に受講料の補助をして育成に取り組んでいる。		職員個別の長期育成計画を作成し、その計画に沿った研修受講や能力向上を図り人材育成することを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東近江事業者協議会グループホーム部会へ加入し、近隣の同業者とは年に4回交流している。他事業所で体験実習をしたり、見学会を行っている。入浴時の簡易リフト等を勉強して介護活動に関する課題や介護の情報交換を行いレベルアップを計っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と家族に事業所に来て貰い面談して意向を聞きだして状況を把握している。さらに他の利用者や職員を紹介して雰囲気慣れて貰う様に心がけている。利用者と家族が慣れて貰う為に家族が同泊することも出来る。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その人らしさを生かす、を基本に職員は料理や生け花等利用者の得意とする分野で教わることが多い。畑での野菜の育て方は利用者が職員に教え、シブ柿を干し柿にする方法、焼き芋作り、コンニャク作り、フキ料理への挑戦等共に作り味わい喜び合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常生活の中から利用者の発する言葉や態度から本人の意向を汲み取るように努めている。本人の意向が分からない時は家族から情報を収集している。出来るだけ本人がしたい事をして貰うように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成は本人、家族と十分話し合いを行い、職員全員でチームとして検討し、必要に応じて協力医と相談して介護計画をまとめている。作成した計画は家族に説明して意見と同意印を貰っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は体調の状況変化に応じて本人、家族、看護師、担当職員との話し合いを行い必要に応じてその都度見直しをしている。介護計画の定期的な見直しは毎月実施しているモニタリングを基に3カ月毎に行い、家族の承諾印を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は家族が同行出来ない場合は職員が送迎をして、医者に利用者の状況を説明している。年末年始の外泊の支援をしている。自治体が行っている助成金の事務手続きを代行している。散髪にも同行している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医には月に1回往診して利用者の健康状態を診て貰っている。かかりつけ医の受診は家族に同行し状況を説明し、家族が連れて行けない時は付き添って医者に状況を説明している。提携医とかかりつけ医は連携していて提携医で出来る診療はそこで対応している。提携医は近所で夜間対応をしてくれる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の方針が定まっておらず、ターミナルケアの具体的な方針が作られていない為に、利用契約書に基本の考え方の明示が無く、本人、家族と方針を共有する段階に至っていない。	○	早急に終末期対応の基本の考え方を確立し、利用契約書にも明示して欲しい。利用者の高齢化が年々進んでおり、利用者と家族の方々と平日頃から話し合いをして、終末期ケアについての考え方を確認をしながら、今後の対応について利用者、家族と考え方を常に共有しておく事を強く望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に対し尊敬の念を持ってやさしい言葉掛けに徹している。毎月職員研修を行い利用者への接遇改善に努めている。外部の人の受け入れ時には先ずプライバシー取り扱いについて説明している。個人情報の取扱いは利用契約書に明記し、個人情報書類は事務所の施錠出来る保管庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活パターンや希望を聞き取り、その日の気分や天候に合わせて利用者とは相談し、個人のペースで生け花、編み物、チギリ絵、カラオケ、畑仕事、野菜の調理、散歩等、自由に過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎日3食とも利用者と職員が相談して季節の旬の物を盛り込んだメニューを作り、食材の買出しから調理、盛り付け、食卓への配置、後片付け等を職員と一緒にやって行っている。体調の悪い人にはキザミ食を作って対応し、職員も一緒に和やかな雰囲気です食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は偶数日を原則とし、時間帯は昼食後から夕食時までの間としているが、本人の希望を聞きながら出来るだけ柔軟に対応している。入浴は柚子湯、菖蒲湯、石楠花湯、と季節感が味わえるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑での野菜作りや草取り、料理の準備や調理、掃除や洗濯物の取り入れ、利用者の趣味の折り紙、編み物、チギリ絵、裁縫、生け花など利用者それぞれの能力や希望に合わせて楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物が好きな人、外食に行きたい人、牧場に羊を見に行きたい人には車で週3回は5～6人で出かけている。、全員参加のお花見、新緑、紅葉狩り、等にも出かけて楽しんでいる。天気の良い日は週3回位4～5人が農道へ散歩に出かけ職員が同行している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や共用空間に施錠は無い。利用者が生活している食堂、居間は広くて見通しが良く、職員は利用者が1人で外出しない様に見守る事を基本としている。玄関を通過するとセンサーが感知してチャイムが鳴り人の出入りが判る様になっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時のマニュアルを作成し、年2回避難訓練を実施し内1回は消防署に立ち会って貰い講評を受けている。火災報知機、消火器、煙・熱警報器を設置していて、避難通路も確保している。近所の住民に協力をお願いして、緊急時にはサイレン付き拡声器で呼びかけて応援に駆けつけて貰うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表は利用者と職員で決めて管理栄養士の指導を受けている。食事と水分摂取量は個別チェックリストにより確認し記録している。利用者の体調不良時はキザミ食で対応し別途記入用紙で回復まで詳細に確認している。水分量の確保の為にいつでもお茶が飲めるようにポットが置いてある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の食堂と居間は両面がガラス窓で天然光が入り明るく掃除も行き届き清潔感がある。和室を併設し季節感のある花を飾っている。居間には懐かしい童謡や民謡をながして利用者はのんびりと過ごしている。浴室やトイレは広く、明るく清潔感がある。玄関周りには季節の花を植えて季節感が味わえる様にしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室は7畳の広さの洋間で家で使用していた馴染みの箆笥やベッド、鏡台、テレビが置かれている。家族の写真等を飾り、この部屋で家族が泊まることが出来る。室温は利用者の希望に合わせて職員が行なっている。		